

上から見ると  
古墳の形!?

5 服部遺跡説明板(服部本町5丁目)

平成6年(1994)、団地の建替え工事の際、弥生時代後期の住居や土器などが見つかり、この辺りには大規模な集落があったと書かれています。団地内の公園は、発掘調査で見つかった墳丘墓をモデルにしていて、古代の歴史を伝えています。



じゃあ、行ってみよう

城山町

服部図書館  
服部老人  
デイサービス  
センター



第四中学校

5

府公社  
豊中団地

服部本町

天竺川

◎全国初  
踏切内の点字ブロック

商店が連なり、多くの人でにぎわう阪急服部駅。北側の踏切は、府内で2番目に利用者が多く、安全対策のため、踏切内には



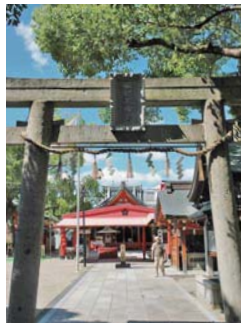
視覚障害者用の点字ブロックが設置されています。



駅の上に枝葉を広げる楠くすのき

4 服部天神宮(服部元町1丁目)

菅原道真が持病の脚氣かっけで歩けなくなった際に、平癒を祈願したと伝わる服部天神宮。地域の人をはじめ、サッカーやマラソンなどのスポーツ選手も数多く訪れています。



また、服部駅には屋根を貫く大きな楠が。かつてはこの辺りまでが服部天神宮の境内で、駅ができたとき、村の人たちの願いで残されました。

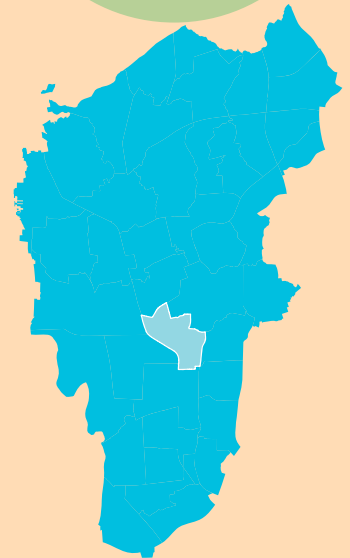
まちある記

マチカネくんと歩く

第8回

文化と芸術があふれるまち  
曽根東町から服部本町へ

中豊島小学校区



ここには市民の文化・芸術活動の拠点となるホールなどがあり、地域のあちらこちらに彫刻がちりばめられています。また、江戸時代の画家・伊藤若冲や、近代の陶芸家・北大路魯山人の足跡も。芸術の秋にぴったりのまちを訪れてみませんか。

◎彫刻がずらり

阪急曽根駅付近には、文化芸術あふれるまちにしようと、随所に彫刻が設置され、道行く人を楽しませてくれます。



魯山人ゆかりの料亭

1 大阪星岡茶寮 (曾根東町3丁目)

昭和10年(1935)に開店した高級料亭・大阪星岡茶寮が、かつてはこの地に。使用する器は、かの北大路魯山人が作っていました。近くで生まれ育った松谷富三さん(78歳)は、「よく敷地内を走り回っていました。池のコイを捕まえたり、温室のブドウを採って食べたりといたずらばかりしていましたね」と小さいころの思い出を語ってくれました。



平和への願いを込めた鳩

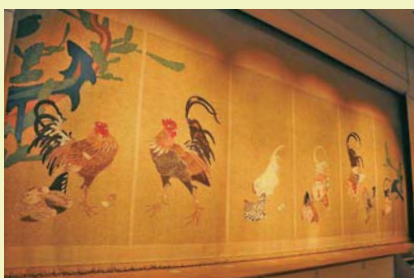
2 三義塚(曾根東町3丁目)

中央公民館の二代目館長として、社会活動に大きな足跡を残した西村真琴博士。昭和7年の上海事変直後、三義里というまちを訪れ、一羽の迷い鳩を保護します。「連れ帰って日本の鳩との間に子どもが生まれたら、平和の使者として上海に送ろう」と「三義」と名付けて飼っていましたが、ある日、死んでしまいます。これを聞いた村人たちは悲しがり、この塚を作りました。



◎記念切手にも使われた若冲の絵

アクア文化ホールにある縦6メートル、横15メートルのどん帳には、江戸時代の画家・伊藤若冲の「仙人掌群鶏図」が描かれています。国の指定文化財になっている西福寺(小曾根)のふすま絵を模して作ったもので、幕が下りてもなお、場内を楽しませてくれます。



散策にぴったり

3 中央幹線景観水路(服部元町2丁目)

ここから、旧猪名川までの約3,200メートルにわたって整備された景観水路と遊歩道。草花が咲き誇り、地域の人の散歩道にもなっています。また、地面にはこんな標示も。旧猪名川からの距離が書かれています。

